

第2節 その他の取組等

〔省内LANの構築〕

1980年代当時の行政には事務の減量化と情報化社会への対応が求められており、そのため、OAの実施という形で事務の効率化やネットワークの形成が図られつつあった。

郵政省でも、パソコン、ワープロ等を積極的に導入するとともに、更なる事務の効率化を推進するため、省内にローカル・エリアネットワーク（LAN）を構築し、1986（昭和61）年3月19日、運用を開始した。

当初はスタンドアロンの機器の使用が多かったが、LANを介した事務処理も着実に増加し、LANの拡充、更には総合的なOAネットワークシステムの実現に向けて取り組んだ。

〔P-NETの構築・運用〕

郵政事業のオンラインネットワークは、為替貯金と保険年金それぞれで構築して運用してきたが、これらが更改期を迎えたのを機に、経済的な観点から、オンラインネットワークのインフラ部分の付加価値通信ネットワークについては郵便を含めた三事業で統合的に運用する「郵政統合通信ネットワーク（P-NET）」を構築することとした。

P-NETの開発は1983（昭和58）年度から進め、1986年3月25日、東京貯金事務センター及び大阪貯金事務センター分館内に通信衛星の地球局を開設して実験を開始した。

この実験の結果も踏まえ、P-NETのネットワーク構成は、ネットワーク管理センターを1か所（東京）、ネットワーク用パケット交換機を全国8か所、ネットワーク用プロトコル交換機を全国400～500か所に設け、通信回線としては専用回線及び電話回線を使用し、パケット交換方式によるものとして、基幹通信回線はDDX⁹⁷で二重化することとした。

P-NETの運用は、1987年3月23日、神奈川県が無集配郵便局10局での保険年金のオンラインサービスの利用から開始し、1987年度以降、為替貯金システム、郵便システム（小包追跡システム及び国際ビジネス郵便追跡システム）等に利用を拡大した。

〔逡信総合博物館・前島記念館の新装〕

逡信総合博物館は、1988（昭和63）年9月から1989（平成元）年3月まで同館を運営する4機関（郵政省、日本電信電話（株）（NTT）、国際電信電話（株）（KDD）及び日本放送協会（NHK））による内部改装工事をし、展示施設も一新して同月

⁹⁷ 当時は日本電信電話（株）が提供していたデジタルデータ交換ネットワーク

25日に新装オープンした。また、この新装オープンに合わせて同館の愛称を「ていぱーく」とした。

通信総合博物館の入館者数は、改装前の1987年度の約26万3,000人に対し、1989年度は約31万4,000人、1990年度は約33万1,000人と増加した。

前島記念館⁹⁸は、1981年に開館50周年記念事業として別館を新築した。1989年には7月から12月まで本館の全面改装工事をし、展示点数を増やす等内容の充実を図った大幅な展示替えをして同月13日に新装オープンした。

【高額詐欺・横領事案】

1980年代には、郵政事業史上空前であった「相模大野事件」の約2億4,000万円を上回る、赤池郵便局（福岡県田川郡福智町）の局長による損害額約3億6,000万円の郵便貯金等詐欺・横領事案があった。この事案は、1982年6月に発覚した。

この事案を踏まえては、特定郵便局長業務推進連絡会（特推連）との連絡を密にし、特定郵便局での犯罪の防止と早期発見を図るため、地方郵政監察局支局に「特推連連絡担当監察官」を置く等の措置を講じた。

第7章 経営成績

1980年代の郵便局数及び事業別の損益その他の経営成績は、以下のようなものであった。

年 度		1980	1981	1982	1983	1984	1985	
郵便局数（年度末）		23,005	23,134	23,250	23,391	23,513	23,633	
郵便	郵便物数 （万通・個）	1,578,669	1,495,141	1,548,757	1,624,919	1,660,150	1,718,827	
	損益 （億円）	収 益	9,403	11,866	12,190	12,508	12,710	13,381
		費 用	9,773	10,692	11,409	12,170	12,596	13,369
		損 益	▲370	1,173	781	338	113	12
		累積損益	▲2,494	▲1,320	▲539	▲201	▲87	▲75

⁹⁸ 1931年11月7日に現在の新潟県上越市の前島密が生まれた上野家の屋敷があった場所に建設され、当初は上越三等局長会が維持運営に当たっていたが、1937年12月に国に寄附され、通信博物館の分館とした。